

〔1〕芦屋市社会福祉協議会

質問	主な発言内容
他機関との連携等について	<ul style="list-style-type: none"> ・民生・児童委員や福祉推進委員との連携は図れている。 ・民生・児童委員や居宅介護支援事業所との連携は一定図れていると思うが、担当ケアマネジャーによって、まちまちという印象もある。 ・他機関の連携を図るための交流会は重要であると思うし、具体的な事例を交えながら議論等をすれば、より有意義になると思う。 ・行政と協力しながら、市の施設等を利用して多世代交流を図りたい。特に、こどもや子育て世帯との交流の場を増やせたら良いと思う。
災害への備えについて	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策として、防災訓練の実施や個別避難計画等の作成をする上で社協も協力できる部分があると思う。防災意識の高さは、地域差もあると思うので、モデルを選定しながら、適宜、取り組みを進めることが望ましいと思う。
重層的支援体制整備事業について	<ul style="list-style-type: none"> ・事業開始から間もないこともあり、事業の内容や具体的な取組を理解し、実行することに苦心している。 ・既存の制度との棲み分けが難しい部分もあると感じている。
居場所づくりについて	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも、どこでも、誰でも利用できるような居場所は理想だが、それを無料で利用できるように運営することは難しいと思う。 ・「居場所＝福祉的サービスが提供される場」と期待する人もいるが、居場所は様々な人が気軽に参加できる場であるべきだと思う。 ・連携のところでも話が出たが、多世代交流の場としても居場所はとても大切だと思う。 ・居場所を周知するために、「つどい場ガイド」という冊子を作成している。
ひとり一役活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のかたに限ったことではないが、大切なのは活躍の場だと思う。そのため、この活動は大切だと思うし、利用されるかたも多い。 ・若いかたが活躍されている事例もあり、公的機関では手が届きにくいところをフォローしてもらっている。 ・特定の活動ではなく、様々な活動に対してニーズがあると思う。 ・誰かの役に立ちたいと考えているひとり一役ワーカーもいる。
地域見まもりネットについて	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろのかかわりの中で異変に気付き、支援に繋げるような事業であり、重要だと考えている。 ・地域の店舗等の登録もあり、実際認知症のかたをサポートしてくれているところもある。 ・新聞が溜まっている等の理由で、情報提供をいただき、実際に助かったケースもあると聞いている。今後は好事例を紹介するなどしてさらに活動をひろげていきたい。
その他について	<ul style="list-style-type: none"> ・市で実施する事業の中でも、多世代交流が可能な事業もあると思うので、地域から孤立させないためにも、より良い方向に向けて協力してもらいたい。 ・伊丹市等では、監視カメラの設置により認知症の方の一人歩きの支援に繋がっている例もあるようだ。

〔2〕 芦屋 PTOTST 連絡会

質問	主な発言内容
他機関との連携等について	<ul style="list-style-type: none"> ・他機関からの講師依頼があります。またワンチームでの研修会をしたりしています。 ・歯科医師会とは、普段医師の指示にもとづきリハビリをおこなっているので現在連携があまりできていないが、嚥下のことなどを連携していければと思う。 ・薬剤師とも薬の影響が能力的なものかなど分からないこともあるので連携をとっていきたいが、なかなか、かかりつけ薬剤師が誰か分からないなどのハードルもある。 ・顔がみえる関係づくりやケアマネと医師会とのグラドルール（連携ツール）みたいなものがあれば連携が取りやすくなると思う。
人材について	<ul style="list-style-type: none"> ・P T・O T・S TのなかでS Tが圧倒的に足りない。募集しても応募がない。人材自体の母数が少ないだけでなく常勤の募集も少ないことが原因と思われる。常勤の正規での募集があればもっと入るのかと思う。 ・比較的女性の多い職種である。イメージ的にP Tは多分男女半々、O Tは女性が多く、S Tも女性のほうが多いです。
行政との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・前回計画策定時に比べて地域ケア会議の出席の機会などが増えたが、人数は多いので一人一人でいうと年1、2回くらいの人もいるので参加はまだできます。

〔3〕 あじさいの会（認知症家族会）

質問	主な発言内容
コロナ禍での活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・あじさいの会自体の活動には、それほど大きな影響はなかったが、施設面会制限や介護サービスの利用制限などで、本人の心身の状態が悪化したり家族介護者には大きな負担があったと聞いている。 ・家族が濃厚接触者になり、仕事に出勤できなくなるなどの悪影響もあった。
認知症相談を気軽にできる環境整備について	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族が相談できる人は、まだ支援しやすいと思うので、自分で相談できない人を発見し支援機関につなぐ仕組みが必要。 ・会報や広報等で、認知症相談の窓口を知る人もいると思うし、それによって救われる人もいるのも事実なので、積極的な広報活動も重要である。 ・認知症に関して、集会所等に出張講座をしてもらうことも、認知症を身近に感じてもらうきっかけとなり、有意義である。
認知症当事者の支援で求められることについて	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座等を通じて、認知症に関する理解を地域で深めることが大切である。 ・民生・児童委員や自治会長等、関係機関が連携することで、認知症の早期発見や早期の支援に繋げることができると思う。 ・最近、「老老介護」や「認認介護」も多いと聞いているので、あじさいの会にも参加してもらって、悩み等を共有してもらいたい。
あじさいの会の活動で今後注力したいことについて	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症当事者家族のお話がたくさん載っている会報を、できるだけ多くの人に届けたいと考えており、市の広報とも連携し、それを進めたい。 ・会報は、多くの時間をかけて丁寧に作るように心がけている。 ・認知症に関して気軽に相談できる場としての「あじさいの会」の存在を、できるだけ多くの人に知ってもらえるようにしたい。